



令和六年度へ

山桜が山並みの中に輝きを見せる中、本日、修了式と離任式を行いました。本年度の人事異動により、次の方々が本校を離れ、新しい方々が着任されます。

《転出》

- 小嶺先生(教頭) ↓退職
- 高橋先生(理科) ↓退職
- 小淵(信)先生(美術) ↓退職
- 田中(数学)先生 ↓有家中学校へ
- 小淵(優)先生(家庭) ↓南島原市教育委員会へ
- 金城先生(保体) ↓退職
- 西川先生(事務) ↓八斗木小学校へ

《転入等》

- 入江先生(教頭) ↑有家中学校から
- 山本(純)先生(美術) ↑加津佐中から
- 松島先生(理科) ↑復帰
- 最上先生(数学) ↑有家中学校から
- 貞方先生(保体) ↑五島市立崎山中学校から
- 與那城先生(数学) ↑新規採用
- 齋藤先生(保体) ↑欠員補充
- 石橋先生(事務) ↑島原高校から

別れは寂しいものですが、それぞれの地で新しい出会いがあればと願っています。どうぞ、お元気で。



来年度の構想

その昔、「集団就職」や「護送船団方式」という言葉がありました。その頃は均一で素直に働く大量の労働者が求められていました。学校も一斉指導が主流で、社会の求めに合っていたように思います。しかし、これからの社会は、予測困難な大きな変化の中にあります。学校も生徒それぞれの持ち味や強みを伸ばし、自分で自分の進路を考えて切り拓く生徒を育成することが求められています。(高校入試もこの方向です) このようなことを踏まえ、来年度の本校教育の柱を、次のようにします。

「生徒の主体性を伸ばす。」

生徒の「主体性」を育む学び(授業や諸活動)の要素は、次の二つだと考えています。

- 一、自分の将来に役立つと生徒が認識する。
- 二、感動がある。

その内容については、新年度になってから御説明しますが、授業以外にも生徒会活動や当番活動、家庭学習など「主体性」を発揮する場面はたくさんありますので、生徒の個性や強みを生かし、支え励まししながら、学校教育を進めていきたいと考えています。



《コラム 港町ブルース》

「時代の変化」

先日、中一の息子さんをお持ちのあるお父さんから進路(入試)について御相談を受けました。その中で次のようなお話がありました。

「まずは私立高校で行き先を確保して…」

ちょっと待ってお父さん！今はそんな時代ではありません。島原半島内にある一〇の高校の入試で定員をオーバーしているのは、私立と国立の学校の方ですよ、とお話ししました。それからいろいろとお話しして、「本人が決めることが大事」とお伝えし、オープンスクールや学校説明会などで実際に見行くことを勧めました。三月二十六日にオープンスクールを実施する高校もあります。時代の変化は、肌で感じることが一番です。



《 主な行事予定 》

《令和6年度 4月》

- 8日(月) 着任式・始業式(給食あり)
- 9日(火) 入学式(午前)
 - 1年生育友会入会式(給食は2・3年生のみ 新入生は午前で下校)
- 12日(金) 生徒会入会式、部活動紹介 歓迎遠足(要弁当)
- 18日(木) 全国学力調査(3年国・数) 県学力調査(2年国・数)
- 19日(金) 県学力調査(3年英語)
- 23日(火) 育友会総会



《心に響いた言葉》 「みんなのお陰で今の自分がいる。」

卒業式での卒業生代表大野君の「別れの言葉」から。互いに支え合ういい生徒たちでした。



令和五年度の歩み

本年度の生徒たちの歩みをほんの一部ですが載せました。どうぞ御覧ください。



学校ホームページには「ワンタフル集」として、もっとたくさん載せていきますので、どうぞ、そちらも御覧ください。

【お礼】
 月一回発行してきた学校だよりですが、本年度は今号が最後となります。生徒達の様子はホームページに載せるとして、本校の方針や取組のほか、教育界や社会の動向等もお知らせしてきました。これらの他「こんな記事を読みたい」など、御希望があらわれましたらお知らせください。今後も充実した内容になるよう努めていきたいと思っております。よろしく願います。本年度の御愛読、ありがとうございました。

本校のホームページも、遠い地から、本校の卒業生ではなくても御覧になられる方がいらっしゃるのか（感謝）。
 そのような方々のためにも、学校だよりやホームページを更新していきたいと思っております。



ふるさとの文化・歴史・人物——口之津中教育の視点から

「関係人口」

人口減少だけでなく人口流出も喫緊の課題の本県（市）ですが、少なからず「つながり」を持つとうとされる方々がいらつしやいます。

関係人口とは、移住した定住人口でもなく、観光にきた交流人口でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉です。

地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に変化を生み出す人材が地域に入り始めており、関係人口と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。

総務省HPから